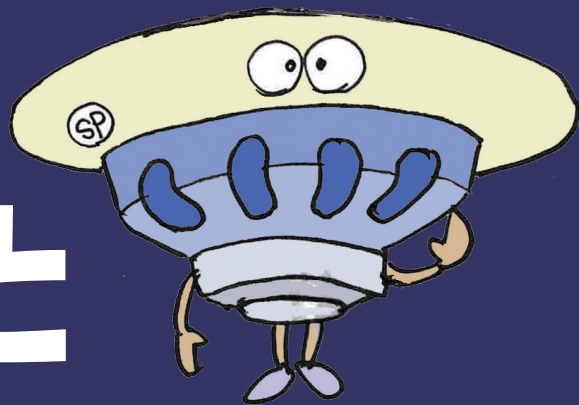


知っていますか？

SPのこと



スプリンクラー設備

火災の熱を感知すると、建物の天井等に設置されたSPヘッドから放水して消火する設備です。

法令により不特定多数が集まる大規模施設や迅速な避難が困難な方が利用する施設、高層建築物などに設置が義務付けられています。

1分間の
放水量

80ℓ以上

※機種により異なります。

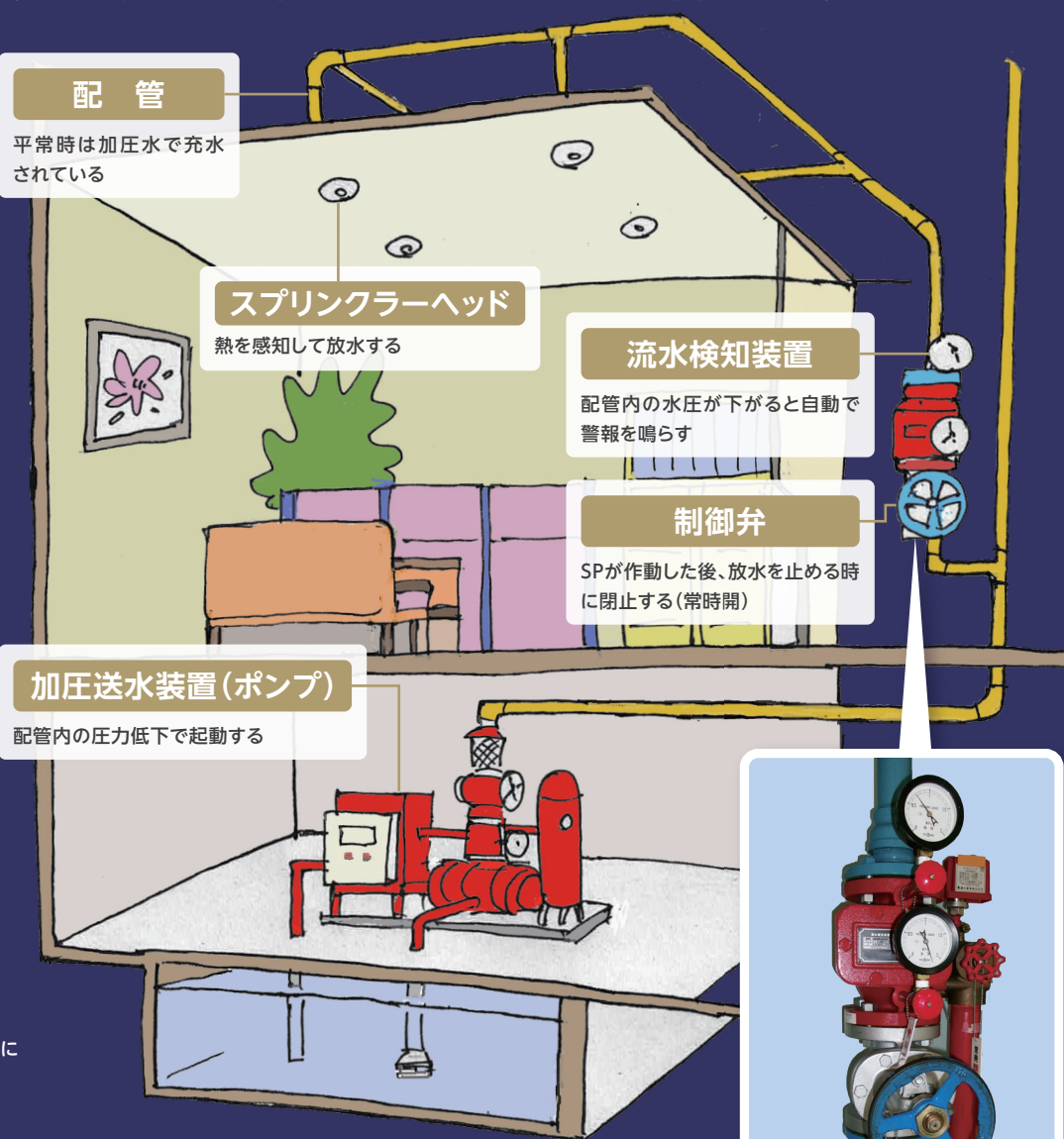
建物に設置されている
SPシステムを確認して
おきましょう。

閉鎖型湿式が最も広く設置されています。
そのほかに、設置場所や対象物の形態によっていくつかのタイプがあります。

火災時自動放水

閉鎖型湿式スプリンクラー設備の図

(配管内は常に加圧された水で満たされており、火災の熱を受けて放水するタイプ)



消火後作法

SPは放水後、人力で止める必要があります。
建物内の制御弁の位置を確認しておきましょう。

1 消火を確認

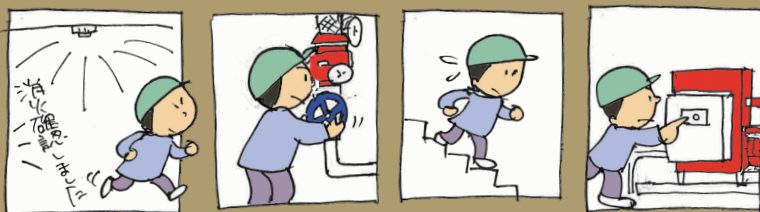
火災が完全に消火されていることを確認しましょう。

2 放水階の制御弁を閉める

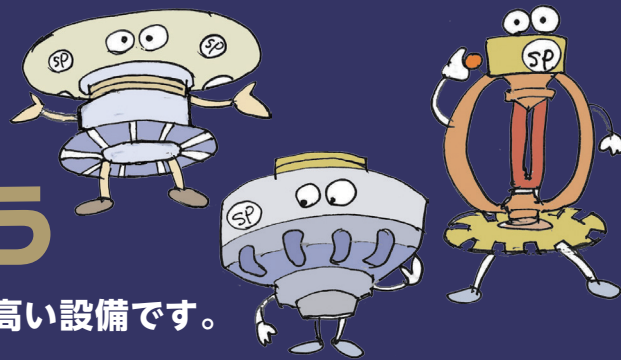
階ごとに制御弁が存在します。日ごろから位置を確認しておきましょう。

3 ポンプを停止する

ポンプ制御盤の停止ボタンを押しましょう。



頼りになるSP 正しく付き合おう



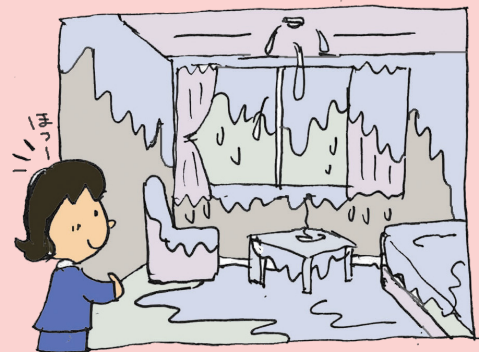
火災の初期段階での消火に非常に有効な信頼性の高い設備です。

SPの効果が発揮された！

物品販売店舗で火災が発生して消火器を使用したが無効。その後、**SPが作動**し消火に成功した。

福祉施設で自動火災報知設備のベルが鳴り居室内の火災を発見。職員が消火器で消火中、**SPが作動**して火災は完全に消火された。

ホテルの客室で火災が発生。自動火災報知設備のベルが鳴り、現場に駆け付けると、**SPが作動**し消火に成功していた。火災通報装置で消防機関に通報後、放送設備等を活用して宿泊客を避難させた。



こんな事案も…

共同住宅の居室から出火。SPが作動して消火したが、**鍵を探すのに手間取り、制御弁の閉止が遅れ、水損が拡大した。**

照明テスト時にホール天井裏の照明室に設置されていたSPが火災ではなかったが熱により放水し水損が発生した。

フット弁が故障しており呼水槽から水が流れていたため、警備員が不審に思い**給水バルブを閉止。そのままにしていたため火災時にポンプが起動しなかった。**



消防用設備等は火災時に正しく作動するように、適正に維持管理することが大切です。

- ▶ 防火対象物の関係者は、消防用設備等を点検し、**報告する義務があります。**（消防法第17条の3の3）

機器
点検

6か月ごと

総合
点検

1年ごと

- ▶ 一定規模以上の建物の管理権原者は、防火管理者を定め消防計画に基づく消防用設備等の点検及び整備を含む防火管理上必要な業務を行わせなければなりません。（消防法第8条第1項）



点検が実施されず消防機関に報告されていない場合は、消防法に基づく命令や罰則の対象となります。

